

子ども支援より充実へ

23団体・個人 連携組織が発足

食堂や学習

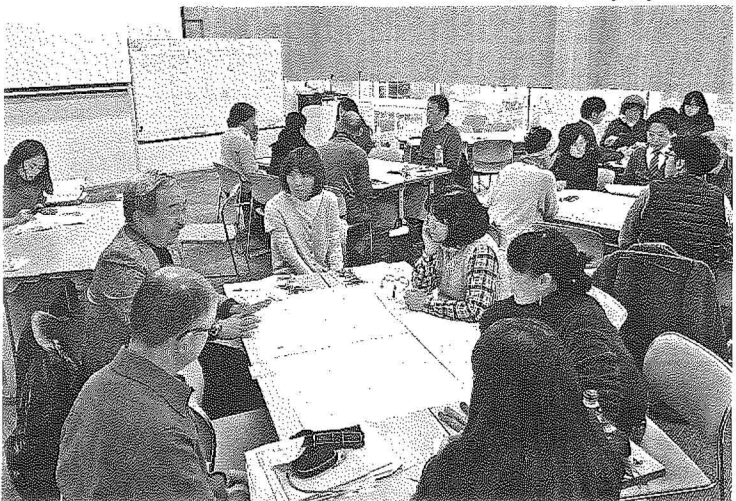
孤立しがちな子どもを対象に、県内で子ども食堂やブレイパークの運営、学習支援活動などに取り組む団体・個人による組織「岡山こどもの居場所連携事業」が17日、発足した。それぞれの課題や運営ノウハウを共有し、より充実した支援へつなげるとともに、子どもを中心にした地域づくりの輪を広げていくことを目指す。

30人が出席。同ネットワーク会議代表の直島克樹・川崎医療福祉大講師が「子どもの育ちを地域や社会と一緒に考えていくことが大切」と呼び掛けた。

母体は、社会福祉士や子ども支援団体の関係者らでつくる「岡山子どもの貧困対策ネットワーク会議」。今後、定期的に会合を開き、情報を交換しながら一緒に活動できる企画なども検討していく。国際医療ボランティアAMDA（岡山市）が、子どもを支援する団体を物資や資金面で支えるために近く設立する「子ども食堂支援プラットフォーム」とも連携する予定。

グループワークもあり、「資金が底を尽きそう」「担い手が不足している」「連携してキャンプなど体験事業をしたい」などと、今の活動の悩みや今後の展開を巡ってやりとりした。

新組織の責任者を務める元川崎医療福祉大教授の八重樫牧子さん（69）＝岡山市北区津島福居＝は「支援者の持つ熱い思いが発揮でき、子どもたちの健やかな成長につながるようにみんなで協力してやっていきたい」と話した。（三宅信行）



子どもの居場所充実へ向け、グループワーク

意見を交わす出席者

岡山市内であった発足式には、賛同した23団体・個人の関係者約